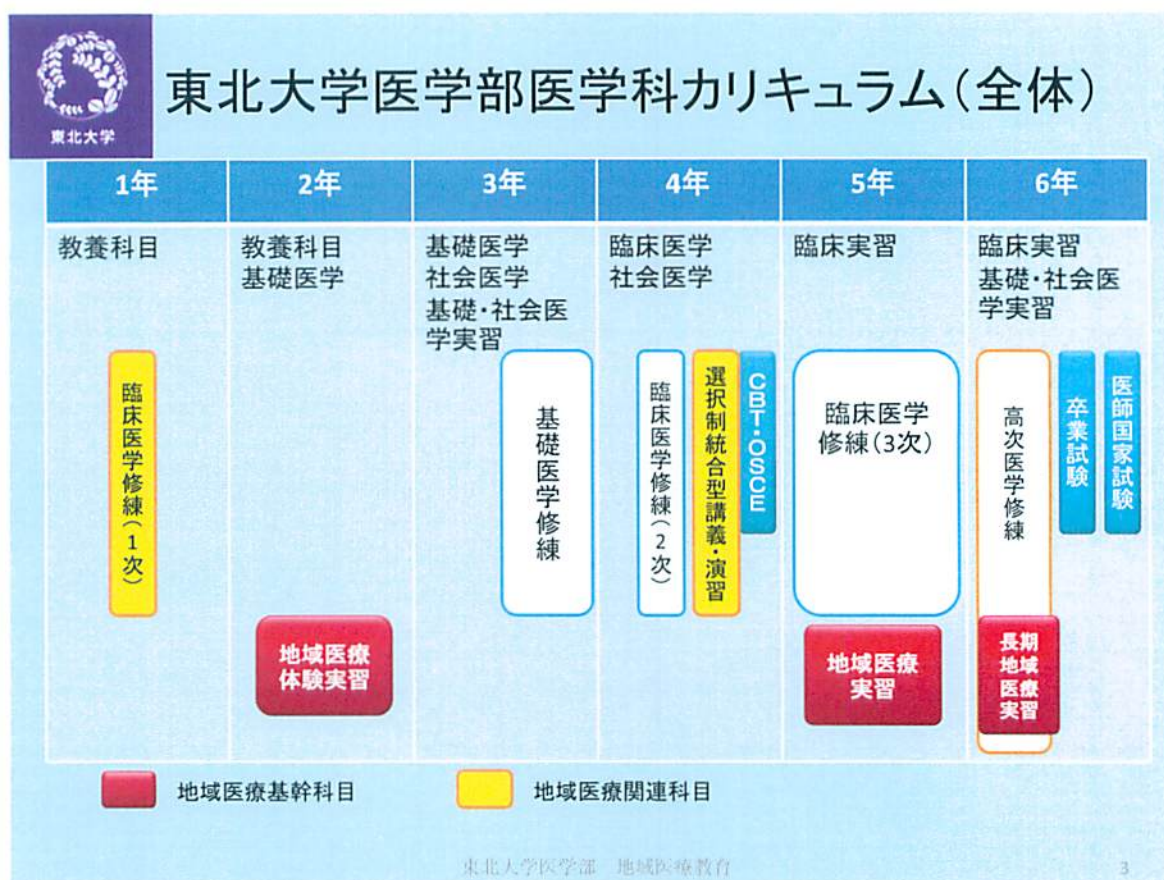


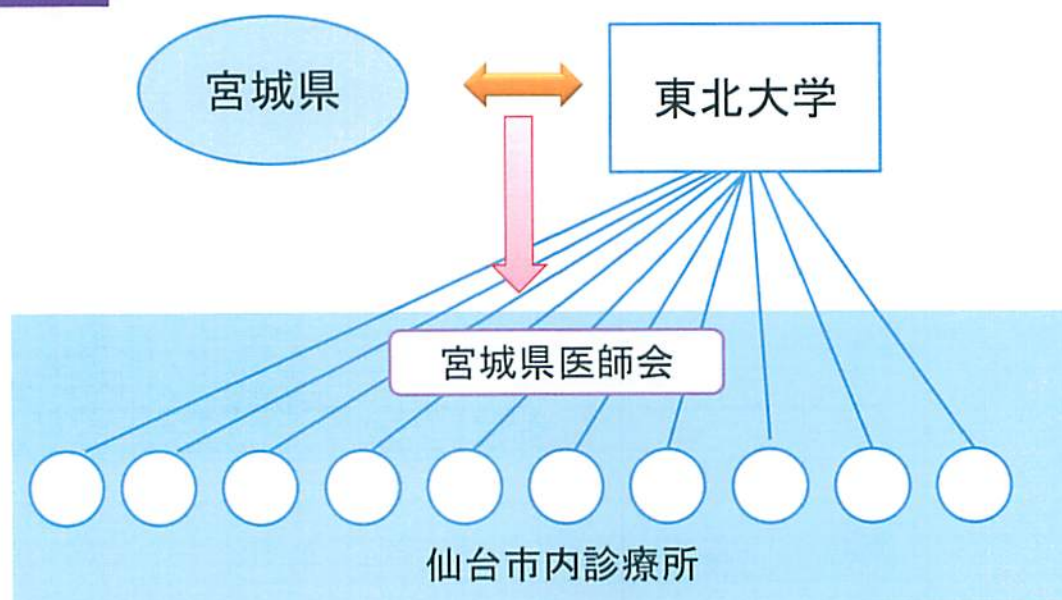
資 料 目 次

- 資料 1 東北大学医学部医学科カリキュラム（全体）
- 資料 2 2 年次 地域医療体験実習 実施体制
- 資料 3 5 年次 地域医療実習 実施体制
- 資料 4 6 年次 長期地域医療実習 実施体制
- 資料 5 研究医養成プログラム
- 資料 6 研究医コースの履修モデル
- 資料 7 東北大学地域医療支援体制（学内）
- 資料 8 シラバス（地域医療基幹科目、地域医療関連科目）
- 資料 9 シラバス（系統講義コース科目、アドバンスド講義科目）





2年次地域医療体験実習 実施体制

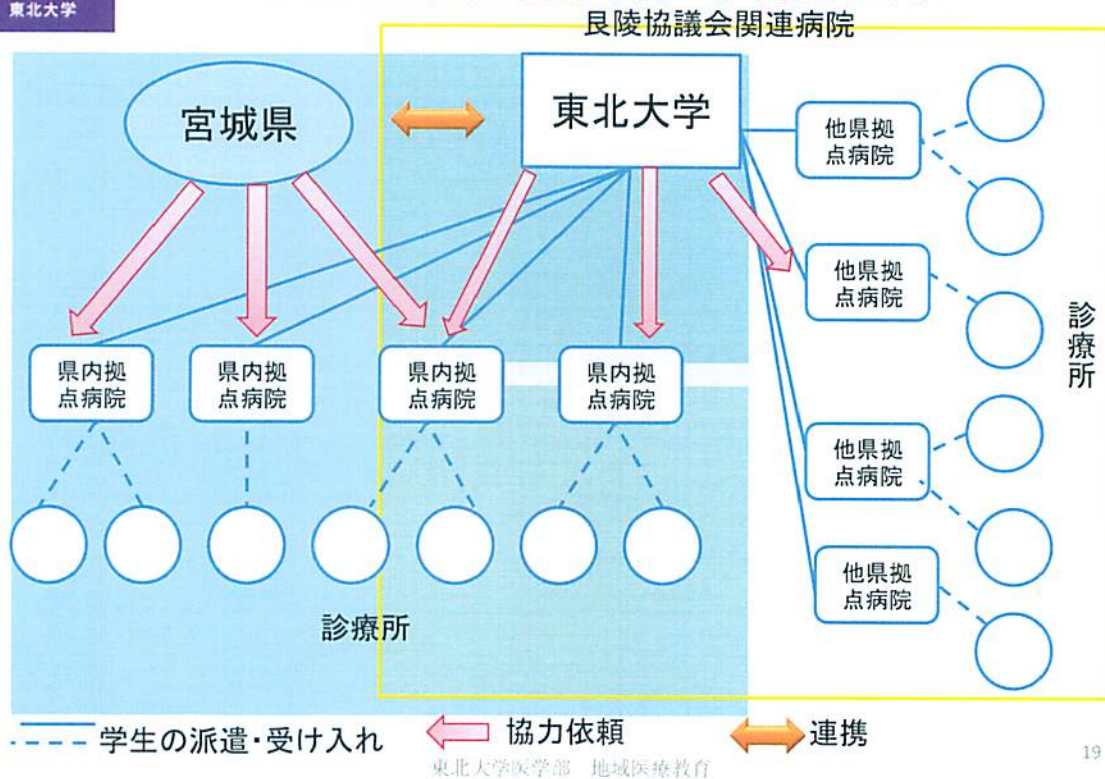


東北大学医学部 地域医療教育

18

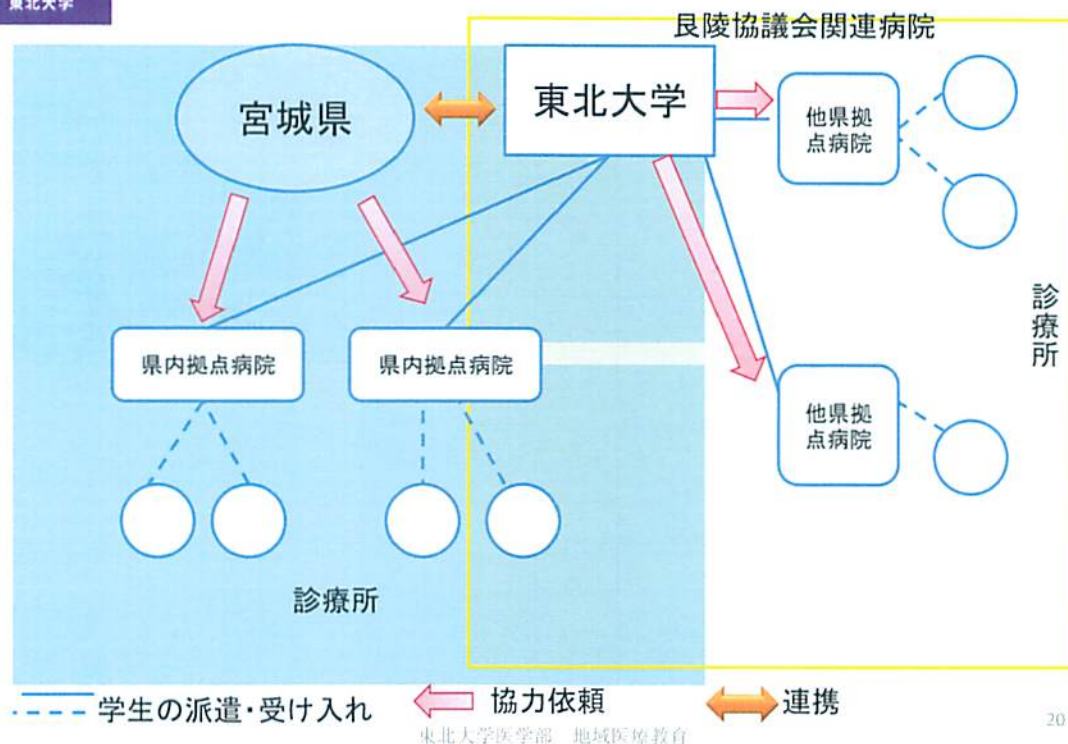


5年次地域医療実習 実施体制





6年次長期地域医療実習 実施体制



20

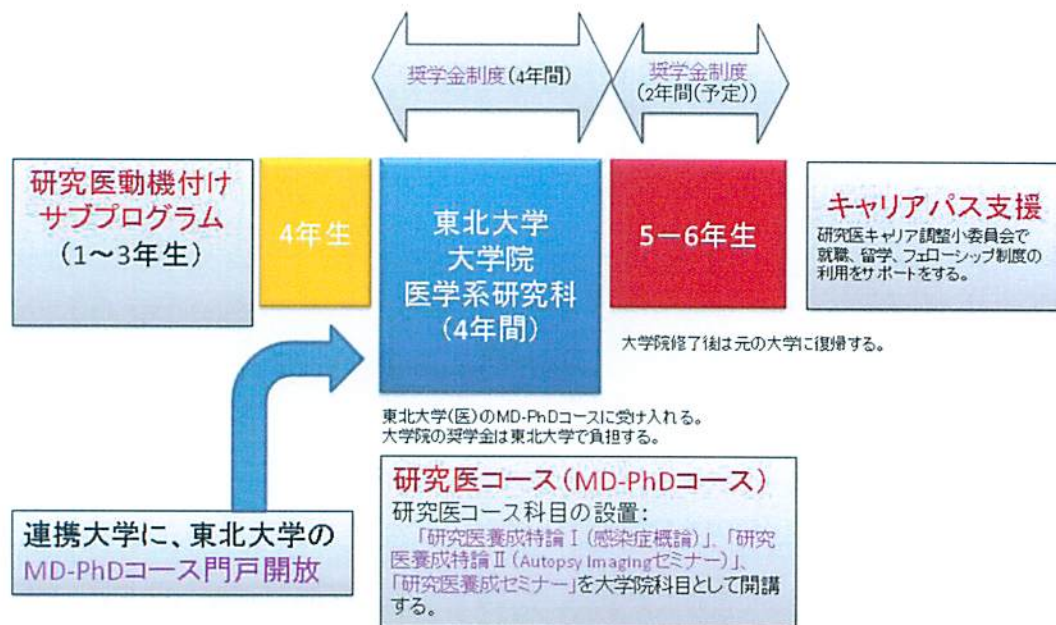
(注) 東北大学長陵協議会

東北大学長陵協議会は、東北大学及び関連病院における医学・医療の充実と発展を図り、主に東北地方における医師の養成と地域医療の向上に寄与することを目的として昭和43年に三者協議会として設立された。三者は学生会、研修病院会、大学からなる。平成5年に東北大学長陵協議会に名称変更し、平成20年5月よりNPO法人化した。本学の教員・医員を含めた医療従事者、初期研修医及び医学部学生並びに関連病院をその構成員としている。卒後臨床研修体制の整備及びその他の関連病院との連携を主な事業とし、相互に緊密な連携協力を行っている。

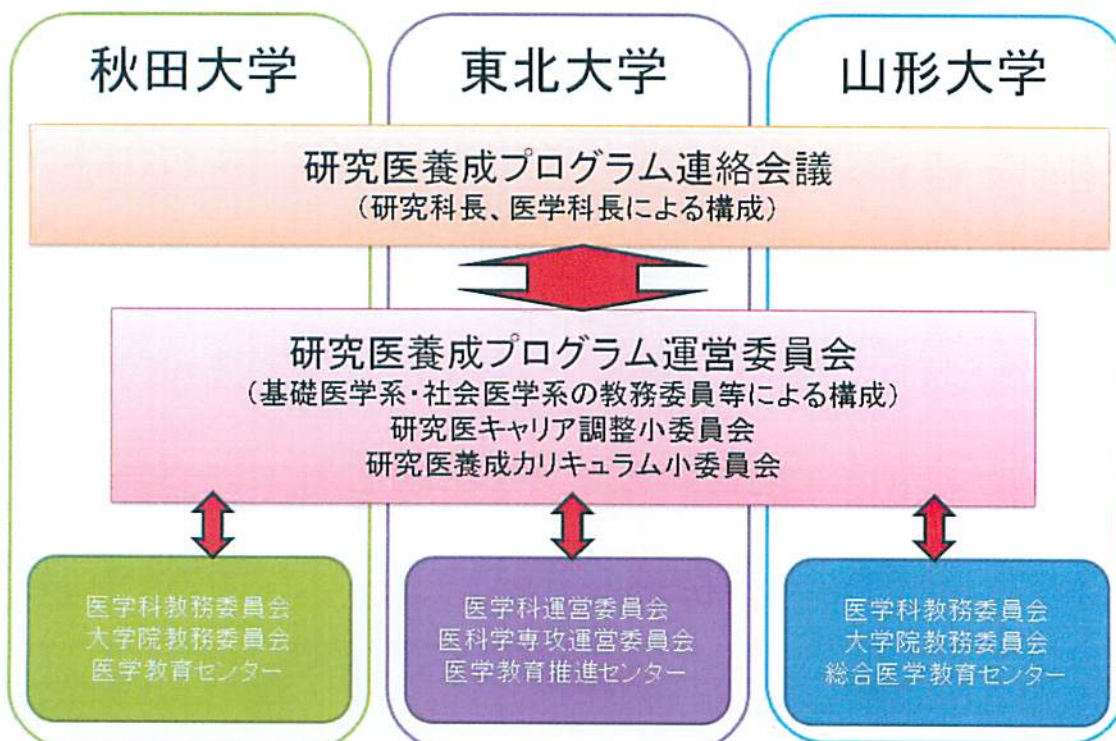
研究医養成プログラム

□連携大学: 秋田大学、東北大学(拠点)、山形大学

□定員4名(連携大学全体)



研究医養成のための教員組織



資料6 研究医コースの履修モデル

1 研究医コース（基礎医学）

（1）対象学生

当該領域に興味を抱き、本研究科医科学専攻博士課程（医学履修課程）の基礎医学系分野に配属した学生

（2）目標進路

基礎医学の研究に従事し、高度な研究能力とその基礎となる豊かな学識を身につけ、基礎医学における研究者への従事を目標とする。

（3）博士論文テーマ

『Hrs タンパクによる HIV-1 Gag 蛋白質の分解制御』

（4）履修科目

区分	授業科目	1年次	2年次	3年次	4年次	合計	備考
系統講義コース科目	研究医養成特論Ⅰ	2				6	
	研究医養成特論Ⅱ		2				
	免疫科学	2					
トレーニングコース科目	研究推進・研究倫理ゼミ	6				22	
	学際領域ゼミ		6				
	論文研究		10				
アドバンスト講義科目	研究医養成セミナー	1				2	
	インターシップ 成果評価		1				
計		13	7	10		30	

（5）履修内容の説明

医学科4年を終了し、基礎医学における研究職あるいは教育職に就くことを目的とする者が履修するコースである。

研究医養成特論Ⅰにより、社会的に必要性が高い感染症の先端的な医学研究の授業を受け、現在の医療が抱える諸問題に対して意識を高める。研究推進・研究倫理ゼミにより、問題発見と解決能力を身につけ、研究医養成セミナーにより、研究遂行可能な能力を開発する。論文研究によって、自らの研究データをまとめ、データを科学的視野から客観的に批判しうる能力を獲得し、研究成果を英文原著として報告できる能力を身につける。

2 研究医コース（社会医学）

（１）対象学生

当該領域に興味を抱き、本研究科医科学専攻博士課程（医学履修課程）の社会医学系分野に配属した学生

（２）目標進路

社会医学の研究に従事し、高度な研究能力とその基礎となる豊かな学識を身につけ、社会医学における研究者への従事を目標とする。

（３）博士論文テーマ

『DNA 個別識別情報の物品認証への応用』

（４）履修科目

区分	授業科目	1年次	2年次	3年次	4年次	合計	備考
系統講義コース科目	研究医養成特論Ⅱ	2				6	
	神経科学基礎	2					
	生命倫理	2					
トレーニングコース科目	研究推進・研究倫理ゼミ	6				22	
	学際領域ゼミ		6				
	論文研究		10				
アドバンスド講義科目	研究医養成セミナー	1				2	
	国際交流セミナーA		1				
計		13	7	10		30	

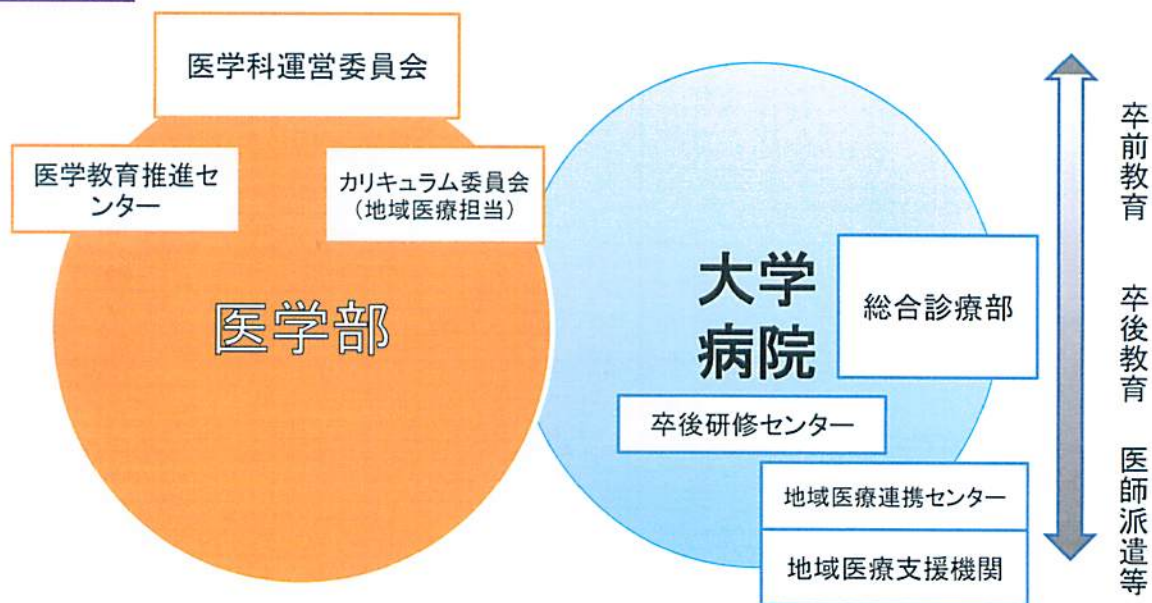
（５）履修内容の説明

医学科４年を終了し、社会医学における研究職あるいは教育職に就くことを目的とする者が履修するコースである。

研究医養成特論Ⅱにより、社会的に必要性が高い法医学の先端的な医学研究の授業を受け、現在の医療が抱える諸問題に対して意識を高める。研究推進・研究倫理ゼミにより、問題発見と解決能力を身につけ、研究医養成セミナーにより、研究遂行可能な能力を開発する。論文研究によって、自らの研究データをまとめ、データを科学的視野から客観的に批判しうる能力を獲得し、研究成果を英文原著として報告できる能力を身につける。



東北大学 地域医療 支援体制(学内)



授業科目：「地域医療体験実習」（地域医療基幹科目）

責任担当分野：総合診療部

対 象：医学部医学科 2 年次学生

実習期間：（A 日程）5 月下旬～7 月上旬 毎週木曜日

（B 日程）5 月下旬～7 月上旬 毎週土曜日

（C 日程）10 月上旬～11 月上旬 毎週火曜日

（D 日程）10 月上旬～11 月上旬 毎週土曜日

※ 学生はいずれかの日程を選択して参加すること。

実習場所：オリエンテーション及び発表会 臨床中講堂他、
仙台市内の地域医療体験実習協力診療所（施設）

担当分野等：総合診療部、地域医療実習カリキュラム委員会

1 教育方針

市中／地域におけるプライマリ・ケアの場を見学体験することで、医師と患者との関係のあり方を学ぶとともに、医学についての学習意欲の再確認を行う

2 個別達成目標

（1）一般目標

① 診療所における医療スタッフ・患者間の関係を理解する

② 地域におけるプライマリ・ケアの意義・必要性を理解する

（2）行動目標

① 診療所における診療を見学する

② 指導医とプライマリ・ケアや医療のあり方について語り合う

3 指導教員

総合診療部教員

地域医療実習カリキュラム委員会委員

4 指導医

実習の受け入れ先となる診療所の指導医（地域医療実習指導医）

5 集合時刻・場所

（1）オリエンテーション

実習に先立ち、オリエンテーションを実施するので必ず参加する

日時・場所については掲示板に掲示するので十分確認する

（2）診療所での体験実習

実習先の診療所の指示どおり

実習の 10 日以上前に診療所に直接連絡をとり、確認する

特に、診療所までの行き方について十分確認しておく

（3）報告会

実習終了後、発表会を実施するので必ず参加する
日時・場所については掲示板に掲示するので十分確認する

6 体験実習の内容・スケジュール

医学部作成の指導医用手引きに基づき、実習先の指導医の指示に従って実習を行う

7 評価方法

総括的評価と形成的評価に基づき、医学部教授会において合否を判定する。

(1) 総括的評価

実習先病院の指導医による評価に基づき、医学部指導教員が総合的に評価する。

(2) 形成的評価

学生の作成する「実習記録」及び指導医の意見に基づき、医学部指導教員が評価する。

- ※ 「実習記録」はオリエンテーションで配布する
- ※ 実習先に忘れずに持参のうえ、必ず記録し、指導医からコメントをもらう
- ※ 「実習記録」は発表会で使用するのを忘れないこと
- ※ 発表会終了後、指示された期限内に教務係に提出する

8 注意事項

説明会で配布する資料を参考に忘れ物のないように注意する

授業科目：「地域医療実習」（地域医療基幹科目）

責任担当分野：総合診療部

対 象：医学部医学科 5 年次学生

実習期間：平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月

※ 上記日程のうち、地域医療実習協力病院において、学生一人につき、4～5 日間の実習を行う。

実習場所：地域医療実習協力病院

担当分野等：総合診療部、地域医療実習カリキュラム委員会

1 教育方針

地域医療の第一線病院における診療への参加を通して、地域医療とプライマリ・ケアについて理解する

2 個別達成目標

（1）一般目標

- ① 地域医療における医療スタッフ・患者間の関係を理解する
- ② 地域医療をとりまく社会的状況を認識する
- ③ 地域におけるプライマリ・ケアの意義・必要性を理解する

（2）行動目標

- ① 地域医療の第一線病院における診療に参加する
- ② 診療所や老人保健施設などの関連施設における診療に参加する
- ③ 在宅医療に参加する
- ④ 医療スタッフと地域医療に関して語り合う

3 指導教員

総合診療部教員

地域医療実習カリキュラム委員会委員

4 指導医

実習の受け入れ先となる病院の指導医（地域医療実習指導医）

5 集合時刻・場所

実習先の病院の指示どおり

※ 実習の 1～2 週間前に病院に直接連絡をとり、確認すること

※ 特に、病院までの行き方について十分確認しておくこと

6 実習内容・診療チーム

（1）実習内容

2（2）の行動目標に即し、医学部作成の指導医用手引きに基づき、実習先の病院が作成したプログラムによる

（2）診療チーム

実習先の病院の指導医・医療スタッフ

7 スケジュール

実習先の病院が作成したスケジュールによる

8 評価方法

総括的評価と形成的評価に基づき、医学部教授会において合否を判定する。

(1) 総括的評価

実習先病院の指導医による評価に基づき、医学部指導教員が総合的に評価する。

(2) 形成的評価

学生の作成する「実習記録」及び指導医の意見に基づき、医学部指導教員が評価する。

※ 「実習記録」は教務係を通して事前に配布する

※ 実習先に忘れずに持参のうえ、必ず記録し、指導医からコメントをもらうこと

※ 実習終了後、2週間以内に教務係に提出すること

9 注意事項

説明会で配布した資料を参考に忘れ物のないように注意すること

授業科目：高次医学修練「長期地域医療実習」（地域医療基幹科目）

責任担当分野：総合診療部

対 象：医学部医学科 6 年次学生

実習期間：Ⅰ期 平成 22 年 4 月

Ⅱ期 平成 22 年 5 月

Ⅲ期 平成 22 年 6 月

Ⅳ期 平成 22 年 7 月

※ 上記日程のうち、最低 2 週間～4 週間の実習を原則とし、学生の希望により、2～4 か月にわたる実習を行えるものとする。

実習場所：長期地域医療実習協力病院

担当分野等：総合診療部、地域医療実習カリキュラム委員会

1 教育方針

少人数体制で密度の濃い長期の診療参加型実習を通して、診療手技の上達のみならず、患者や医療チームの職員とのコミュニケーションを保ち、地域医療の重要性の認識を深め、医療を実践できる医師としての総合力を養う

2 個別達成目標

（1）一般目標

- ① 医療スタッフ・患者間の関係を理解する
- ② 地域医療を取り巻く社会的状況を認識する
- ③ プライマリ・ケアの知識と技能を一層深く練磨し、確かな成果をあげる

（2）行動目標

- ① 地域の第一線病院における診療に参加する
- ② 診療所や老人保健施設などの関連施設における診療に参加する
- ③ 在宅医療に参加する
- ④ 患者、患者家族から必要な情報を聞き取る
- ⑤ プライマリ・ケアの技能を指導医・医療スタッフの指導のもとで実践する
- ⑥ 指導医・医療スタッフとプライマリ・ケアや医療のあり方について語り合う

3 指導教員

総合診療部教員

地域医療実習カリキュラム委員会委員

4 指導医

実習の受け入れ先となる病院の指導医（地域医療実習指導医）

5 集合時刻・場所

実習先の病院の指示どおり

※ 実習の 2 週間前までに病院に直接連絡をとり、確認する

※ 特に、病院までの行き方について十分確認しておく

6 実習内容・診療チーム

(1) 実習内容

2 (2) の行動目標に即し、医学部作成の指導医用手引きに基づき、実習先の病院が作成したプログラムによる。

(2) 診療チーム

実習先の病院の指導医・医療スタッフ

7 スケジュール

実習先の病院が作成したスケジュールによる

8 巡回指導

実習期間中において、医学部指導教員が実習先を訪問し、月 1 回程度、実習の現場の視察を行う。

9 評価方法

総括的評価と形成的評価に基づき、医学部教授会において合否を判定する。

(1) 総括的評価

実習先病院の指導医による評価に基づき、医学部指導教員が総合的に評価する。

(2) 形成的評価

学生の作成する「実習記録」及び指導医の意見に基づき、医学部指導教員が評価する。

※ 「実習記録」は教務係を通して事前に配布する

※ 実習先に忘れずに持参のうえ、必ず記録し、指導医からコメントをもらう

※ 実習終了後、2 週間以内に教務係に提出すること

授業科目：「臨床医学修練（1次）」（地域医療関連科目）

責任担当分野：臨床医学修練（1次）カリキュラム委員会

対 象： 医学部医学科1年次年生

実習期間： （I期）平成22年9月上旬～下旬（3週間）

（II期）平成22年10月～平成23年2月毎週金曜日4時限

場 所： 医学部第1講義室他

担当分野等： 臨床医学修練（1次）カリキュラム委員会，医学教育推進センター

1. 教育方針／到達目標（GIO）：

医療現場の体験を介して，患者への理解と共感，医療の実際と重要性を認識し，医学を研鑽してゆく上での動機・自覚を高める。

2. 行動目標（SBO）：

- 1) 医療の背景にある医療福祉，社会保障制度を理解する。
- 2) 医療の機構について理解する。
- 3) 様々な医療現場を見学・体験し，またそこに働く医療従事者・他の多くの職種の人を見学またはその仕事を補助することによって，医療全体の仕組みと連携を理解する。
- 4) 様々な福祉施設などを見学・体験し，これらの社会的役割・連携，従事者の役割を理解する。
- 5) 病院・福祉施設などにおいて，患者・高齢者・様々な障害を負った人々を理解し，これに対する医療の在り方，医療従事者の在り方を考える。
- 6) 救急蘇生・手洗い・介護・乳児沐浴・車椅子の扱いに関して基本的知識と技能を習得する。
- 7) 医学生としての明確な目的意識，高い倫理観，学びの転換，知識と実践の関連を理解する。

3. 学習方式：

- （I期）オリエンテーション，コミュニケーション実習，患者・患者遺族などの特別講演を全体で行い，少人数のグループに分かれての医療入門ワークショップ、実技実習（手洗い、心肺蘇生、沐浴、介護、車椅子）、大学病院実習、学外施設実習を行う。
- （II期）医療の最前線で活躍する学内外の第一人者による講演と双方向授業を行う。
- 一部、地域医療に従事する医師の講演とアンケート演習による地域医療動機付け教育を行う。

4. 試 験

な し

5. 教員

臨床医学修練（1次）カリキュラム委員会

医学部教員等

学外非常勤講師

6. 成績の判定と評価

実習の各部署で指導者が出席及び評価表により学生を評価し、これに基づき、臨床医学修練（1次）カリキュラム委員会が総合的に評価を行い、医学部教授会において合否を判定する。

7. 指定教科書

なし

8. 推薦図書

「シネマの中の人間と医療—エシックス・シアターへの招待」

浅井 篤 編著（医療文化社，2,100 円（税別））

「生命のキャッチボール 難病と生きる 40 のメッセージ」

社会福祉法人ありのまま舎 編（ありのまま舎（自費出版），1,500 円（税別））

「患者の声を医療に生かす」

大熊由紀子・開原成允，服部洋一 編著（医学書院，1,800 円（税別））

授業科目：「選択制統合型講義・演習」（地域医療関連科目）

責任担当分野：選択制統合型講義・演習カリキュラム委員会

対 象：医学部医学科 4 年次年生

実習期間：（I 期）平成 22 年 10 月～12 月毎週月曜日 6 時限

（II 期）平成 23 年 2 月上旬～中旬

場 所：医学部臨床大講堂，臨床中講堂

担当分野：選択制統合型講義・演習カリキュラム委員会，医学教育推進センター

1. 教育方針 (Mission)

医療の最前線と医学の最先端について、様々な領域の第一人者が通論講義の枠を越えた話題を提供し、また、学生と相互討論を行って、学生の医療と医学に臨む意欲を喚起する。

2. 達成目標 (Goals)

- 1) 医療現場の最新事情ならびに医学研究の最先端について様々な領域の講演を聴き、講師との討論を通して理解を深める。
- 2) 教室で知る「臨床医学」から医療現場で活用する「医療学」へと思考を展開し、臨床実習および地域医療実習に臨む礎とする。

3. 授業方式 (Strategies)

学内専任教員による advanced course 特論講義，学外非常勤講師による特別講義，学内専任教員による双方向性参加型演習の 3 本立てで実施する。

学内専任教員による advanced course 特論講義は，並列で同時に開講し，二者択一の選択制とする。学外非常勤講師による特別講義は，全員履修とする。演習は，臨床実習へ繋がる臨床推論を基調とし，全員履修とする。

4. 教員

選択制統合型講義・演習カリキュラム委員会

医学部教員等

学外非常勤講師

5. 成績の判定と評価 (Assessment)

試験は行わない。指導者が行う出席及びレポートの評価を踏まえ，選択制統合型講義・演習カリキュラム委員会が総合的に評価を行い，医学部教授会において可否を判定する。

授業科目：「研究医養成特論Ⅰ：感染症概論」（系統講義コース科目）

責任担当分野：微生物学分野

単位数：2 単位

対象：医学履修課程（博士）研究医コース大学院生

期間：平成 22 年 4 月～

場所：微生物学分野セミナー室など

担当分野等：微生物学分野、感染制御・検査診断学分野、感染病態学分野、病理形態学分野、
研究医養成カリキュラム小委員会

1. 教育方針・到達目標（GIO）：

感染症の社会的問題を実例に即して理解する。

2. 行動目標（SBO）：

- 1) トピックの感染症（H21 年の新型インフルエンザなど）を理解する。
- 2) パンデミックのメカニズムを説明できる。
- 3) レトロウイルス感染症を理解する。
- 4) 院内感染症について理解する。
- 5) 新興・再興感染症を理解する。
- 6) 感染対策の基本を理解する。

3. 学習方式：

ISTU 授業（全 12 回）による。

- 1) 免疫系細胞の発生・分化・増殖機構
- 2) 菌体成分、特にペプチドグリカン認識機構
- 3) 好中球と粘膜細胞とのクロストーク
- 4) ヒトレトロウイルス感染症
- 5) パンデミック概論（ISTU 収録予定）
- 6) インフルエンザ感染症 1（ISTU 収録予定）
- 7) インフルエンザ感染症 2（ISTU 収録予定）
- 8) インフルエンザ感染症 3（ISTU 収録予定）
- 9) SARS 感染症（ISTU 収録予定）
- 10) 肝炎ウイルス感染症（ISTU 収録予定）
- 11) 新興・再興感染症（ISTU 収録予定）
- 12) 感染と疾患（ISTU 収録予定）

4. 試験：なし。

5. 教員：押谷教授（微生物学分野）ら

6. 成績の判定：出席率ならびにレポート評価による。

授業科目：「研究医養成特論Ⅱ：Autopsy imaging セミナー」

(系統講義コース科目)

責任担当分野：法医学分野

単位数：2 単位

対象：医学履修課程（博士）研究医コース大学院生

期間：平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月（月例、全 15 回）

場所：法医学分野 セミナー室など

担当分野等：法医学分野、画像診断技術学分野、病理形態学分野、研究医養成カリキュラム小委員会

1. 教育方針・到達目標（G I O）：

最近、死後診断の新技术として、法医学、病理学の分野で注目を集めている Autopsy imaging (Ai)法の全般について、症例検討を通して理解を深める。

2. 行動目標（S B O）：

- 1) Ai 法による診断過程を理解する。
- 2) Ai 法による症例検討の発表ができる。
- 3) Ai 法の利点、欠点を理解する。
- 4) Ai 法の不適用例を判断できる。
- 5) Ai 法の報告書を作成できる。

3. 学習方式：

月例開催の「Autopsy imaging セミナー」に参加する。

4. 試験：

なし。

5. 教員

舟山教授（法医学分野）ら

6. 成績の判定

出席率ならびに参加時の取り組みの学習態度による。

授業科目：「研究医養成セミナー」（アドバンスド講義科目）

責任担当分野：基礎・社会医学系分野

単位数：1 単位

対象：医学履修課程（博士）研究医コース大学院生

期間：平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月（全 15 回）

場所：第一セミナー室、分野セミナー室など

担当分野等：大学院学生の所属する基礎・社会医学系分野、研究医養成カリキュラム小委員会

1. 教育方針・到達目標（G I O）：

研究医コース学生の所属する各専門分野の研究プロGRESS報告会、専門講師招聘セミナー、症例検討会を通して、関連分野の高度専門知識ならびに討論法を習得する。専門性を高めることを目標とする。

2. 行動目標（S B O）：

- 1) 研究課題、成果を十分に説明することができる。
- 2) 研究課題の問題点を指摘し、教員とのディスカッションに参加できる。
- 3) 研究課題に関する助言を導き出すことができる。
- 4) 必要に応じて研究課題の計画案を修正できる。
- 5) 共同研究などの可能性を探り、提案書にまとめられる。
- 6) 関連分野の情報を把握することができる。
- 7) 基礎研究の医療応用について考え、討論できる。

3. 学習方式：

研究医コース学生の所属ならびに関連分野で行う演習形式のセミナーに参加する。

4. 試験：

なし。

5. 教員

社会・基礎医学系分野の教授（研究医コース学生の指導教員）

6. 成績の判定

出席率ならびに参加時の取り組みの学習態度による。